

(87) 群馬県南牧村の大水沢鉱山跡

参考文献(1)を手引きに探査に出かけた。文献では「群馬県南牧村赤岩の輝安鉱」の題名で紹介してあった。現地の入口の沢に架かっている橋の欄干には「大水沢鉱山」の古ぼけて今にも朽ちそうな木の案内板が、錆びた針金で固定されて残っていた。従って今回の探査鉱山名をこの名前とした。

輝安鉱については茂木鉱山の頂で述べているが、茂木鉱山では何の標本も採集できていなかった。この大水沢鉱山で、良い輝安鉱の標本を採集することができた。

鉱山跡への経路は次の通りである。上信越道を下仁田ICで下車し、下仁田町中心に向かっていく。中心部から、南牧村へ向かって45号線を進む。途中で、93号線に進んでいき、南牧川に沿って西行していく。図1に示している赤岩地区まで進んでいく。赤丸のところが鉱山跡である。南牧川の支流である大水沢の上流にある。93号道路には、この沢のために橋が架かっている。この橋の付近に適当な広さの空き地がある。駐車できる。ここから沢を遡ることになる。坑口跡群までは徒歩30分～40分程度か。道も途中まではしっかりしており、消えているところでは沢を進んでいけばよい。

図1には鉱山跡の大まかな位置を示している。図2に、探査の結果得られた詳細な現地案内図を示している。

探査日 2011年 6月、その他



図1 国土地理院の地図閲覧サービスホームページより複写掲載。赤丸のところが鉱山跡。

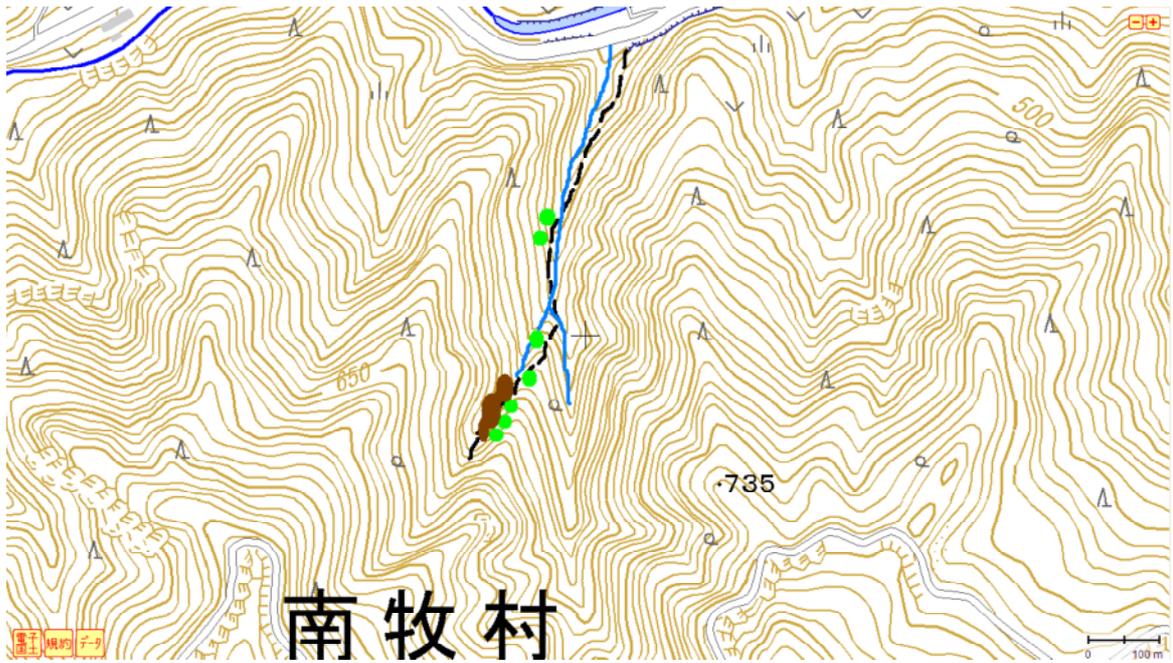


図2 図1の部分拡大図。水色が水の流れている沢、黒破線が林道、黄緑丸が坑口跡、茶色がズリ。

鉱山跡写真



写真1 大水沢より少し先に、「蟬の溪谷」の観光地がある。そこに掲示されていた案内板。右下隅に、大水沢鉱山跡が明記されている。



写真2 大水沢に架かっている橋の欄干が見える。写真の左側の空き地には車が駐車できる。鉱山跡には、この空き地から、沢の右岸にある（沢の上流に向かって左側）林道を登っていく。



写真3 歩き始めてから約20分程度で、沢の分岐点に付く。右側の沢の上流に鉱山跡がある。少し左側の沢に進んでから、右手となる尾根部に登り上がれば、道が右側の沢に沿って延びている。



写真4 沢の右岸上部にある坑口跡である。写真では左右2箇所に坑口跡が見えるが、あたりには幾つもの坑口跡がある。手前はズリである。正面の岸壁には、表面が錆びた輝安鉱がこびり付いていた。



写真5 茶グロのこびりつきをハンマーで叩いたら、銀白色の劈開面が出てきた。中央、茶色の中の銀色の部分。駈け落ちた試料をESCAで調べたら、Sb（アンチモン）とS（硫黄）の線が出た。

採集鉱物写真



写真6 あの錆びた部分は輝安鉱であると断定し、後日、再採集に出かけた。母岩ごと破碎して採集した標本の1つ。銀ピカ所、茶色に錆びたところが輝安鉱。厚さは1cm弱。左側及び下の部分はデイサイト（流紋岩類）？



写真7 写真6の標本の家族。輝安鉱らしく、銀ピカの剣の束の様子がよく見える。

坑口跡下の大きなズリの中からは、輝安鉱の標本は探し出せなかった。というのは、上のような良い標本を幾つか採集できたので、ズリを無理に探すこともしなかったからでもある。

参考文献

(1)「鉱物産地案内シリーズ 鉱物産地をたずねて(増補改訂版)」、梅沢俊一、1995年、自費出版本が、神田の古本屋で購入。